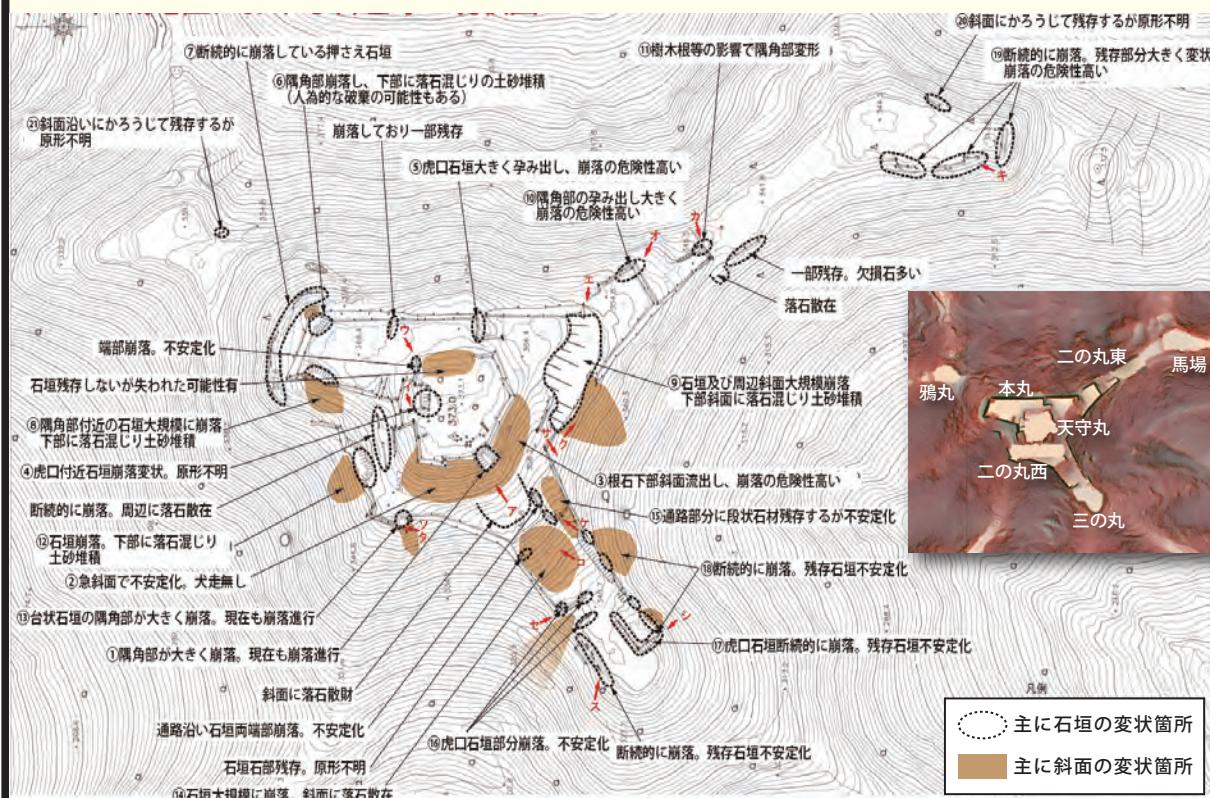


石垣の崩落や変状が進む利神城跡

「石垣カルテ」で明らかになった山城石垣の現状



山城中心地区の保存の現状

- 地盤の風化・斜面流失などがあり、石垣の崩落や変状が進行
- 動物の食害による下草の消失や踏圧が土壤流失の原因である
- 石垣の危険箇所が多く、除草などの維持管理が不十分
- 草刈り範囲等、地域と行政との分担範囲が不明確
- 樹木管理が不十分である



御殿屋敷地区の保存の現状 は次号でお知らせします

整備基本計画策定にあたって
ちょっとひとこと ①

●「遺跡」と「景観」を一体に考える

「遺跡」を含めて「景観」の成り立ちを整理すると、まず、もともとの地形があつて、そこに雨が降り、そして川ができる、全体の今ある地形ができています。そこに植物が、動物が、そして人間が住み、歴史が刻まれ、文化が育ってきたという、そういう基本的な成り立ちがあると思います。そこに「文化財」があり、「景観」があるという状況ではないでしょうか。それは「遺跡」も「景観」も共通していることで、つまり、その地域の特性というのは、その地形によって決まっていて、地理的な条件です。利神城跡の整備は、地理的条件を基に、景観と一体的に考える必要があるのではないかでしょうか。

◆山上の石垣は延長650m
利神城の石垣は、山頂部の山城跡と、西麓一帯の御殿屋敷跡に残っています。石垣の延長は、山城跡が約650m、御殿屋敷跡が350mで、総延長約1,000mです。最も高い石垣は、山城跡の本丸北角で、約9mあります。

◆年々状態が悪化する石垣
石垣全般に毀損・変状箇所が多く、山城跡の石垣では下部の法面と共に崩落している箇所や崩落寸前の石垣、大きく孕み出した石垣が見られます。これらは年々状態が悪化することは

町は、本年度から利神城跡の具体的な整備プランづくりを始めます。利神城跡の保存と活用にあたって最も重要な課題は、不安定な石垣遺構の整備です。石垣の現況は、航空レーザー計測や石垣カルテの作成によって、おおむね明らかになっています。本号では、令和元年に策定した「史跡利神城跡保存活用計画」をもとに、山城地区の石垣の現状などをお知らせします。



NO 4
2023
令和5年7月

国史跡
利神城跡
かわら版

編集・発行
佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790-82-2424

◆雨水や植物生育が悪影響
「保存活用計画」でまとめた山城跡の現状は、図をご覧いただくとお分かりのとおり、ほとんどの石垣と斜面が不安定な状態です。欠損や変状の原因は、過去の人為的な行為のほか、雨水や石垣面の植物生育などが徐々に影響しているようです。最も保存が急がれる箇所は、平和2年度から応急工事を行つたことは、創刊号でお知らせしたとおりです。

もちろん、豪雨や地震が発生すれば、一気に崩落が広がる危険が高いと言わざるを得ません。